

1 ねらい(単元目標)

単元目標は、前ページ単元目標を参照。

2 実践の概要

(1) 矢作橋や矢作橋の周辺を探検しよう

4月、矢作橋について知っていることを確認し合った。すると、普段気にしていないせいか、あまり情報が集まらなかった。そこで、橋や橋の周辺を探検することにした。矢作橋に着くと「出会いの像」があった。また、矢作神社には矢作橋の石柱があった。「なんで橋のところに石像があるんだろう」「石の柱に明治40年と書いてあるよ」などが発表された。橋がいつ頃からあって、矢作という地域にどんな歴史があるのかを調べる活動をするようになった。

(2) 矢作橋の歴史を知ろう。

**〈矢作橋周辺・矢作神社〉** 矢作神社に行くと、史跡があった。「日本武尊と書いてある像があるよ。」「矢竹って何?」「うなり石っていうのがあるよ」と、次々に発見していった。しかし、それらが一体何なのかわからなかった。そこで、矢作の歴史について書かれている文献を当たってみた。すると、日本武尊が川の近くに生えていた竹で矢を作ったという伝説や、新田義貞と足利尊氏の戦いのときにこの地にあった石がうなったという伝説があるのだということがわかった。しかし、子供たちは、日本武尊などの伝説がわからなかったため、地域の詳しい方にかみくだいて話をしていただいた。

矢作は、東海道があるからたくさんの方がここに昔から来ていて、すごく歴史があるとわかった。矢作が昔からすごく大事なところだったのだとわかりました。(A児振り返りカード)

**〈矢作橋〉** 矢作橋の石柱が、今の位置より北に置かれていた。「昔はここにかかっていたのかな」「何で橋をかける位置を変えてしまったのだろう。」という声が上がった。文献を当たってみると、橋は江戸時代より前から架かっていることが分かった。そしてそれ以降、何度も架け替えが行われていることもわかった。「何回くらい架け替えているの?」「昔の橋はどんな橋なの」ということが分からずにいた。そこで、リブラの「ふるさとむかし館」の野本先生を招き、お話を聞くことになった。

橋のかけかえは今回で14回になるということがわかりました。江戸時代の橋は、日本で一番長い木の橋だったそうです。矢作はすごいと思いました。ときどき川の流れて流されるから道が切れてしまって大変だったそうです。車が通るから橋の幅が広がったそうです。じょうぶに広く作らないといけないから、今の橋はどうなるのか気になります。(A児カード)

(3) どんな矢作橋ができるのかな

今の仮の橋やその周辺を歩いて、道の様子を調べた。すると、「1号線がすごく混んでいて、排気ガス臭い」とか、「橋の上をたくさんトラックが通っていてすごく揺れていて落ちそう」という声があがった。また、新しい橋を見たところ、「今の橋よりだいぶ高い」とか「青い橋なのは、今の橋と同じだ」という声が上がった。工事をしている方や、国土交通省の方に橋の作り方や、色のこと、今の橋と変わるところなどについて話を聞いた。



工事では、地震にも負けないように厚く橋を作っているそうです。橋のところもトンネルを作ってじゅうたいしないようにしています。川の魚がこまらないように、送り出し工法だそうです。今の一番がつまっています。色は地域の人と相談しながら決めているそうです。みんなの橋だからなあと思いました。ぼくたちが大人になったときのかけかえでは、どんな橋があってどんな矢作になっているのだろう。ぼくも橋を作る人になりたい。(A児カード)

(4) 学習の成果を発表し合おう

「歴史についてみんなが知っていると、みんなが矢作のことを大切にしたいと思ってくれるから、ぼくたちが勉強したことをみんなに話すのがいい」という声が出た。そして、子どもたちは紙芝居にして、橋の歴史や、今建設中の橋についてまとめ、発表を行う計画を立てた。

3 実践を振り返って

2月に行われる「矢東くわくタイム発表会」では、自ら調べたことを堂々と発表することを期待している。地域にあるものが、人々の願いや努力によって築かれていることに気づけた。しかし、自分たちがどんなことができるのかという点で、調べたことを発信するにとどまってしまった。どんな活動につなげていけたかをもっと研究するべきであった。